

1. 観光まちづくりについてお聞きします。平成 28 年 10 月に東大阪ツーリズム振興機構（いわゆるDMO）を立ち上げ、観光に舵を切ってから 5 年目を迎えます。これまで観光に無縁と考えられていた東大阪で、国が地方創生の大きな柱として観光を打ち出し国からの地方創生推進交付金を受けて観光に第一歩を踏み出したのですから、これを持続可能なものにして東大阪に大きな価値をもたらす東大阪の都市の魅力にしていかなければなりません。そこで数点お伺いします。

第一に財源の問題です。国の地方創生推進交付金も 5 年間の交付が約束されていましたが、来年度が最後となります。観光政策が持続可能なものとして続いていくためには、交付金・補助金に頼っていることはできません。28 年 12 月議会で温泉地のよ

2003 第 1 回定例会 個人質問

査でも、人が辞めたために人件費で不用額が多く出ていますし、事務局長も 3 月で退職されると仄聞しています。「人は石垣、人は城」と言われるように組織が活性化され、十全の機能を発揮するためには何よりも人が大切ではないでしょうか。そして観光に関わる人的なネットワークの要となっていくことが必要なのに、要にあたる組織が脆弱では観光まちづくりを推進することはできないといわなければなりません。組織の現状と、今後の見通しをお答えください。

第三に観光に関わる組織との連携の問題です。新年度から都市魅力産業スポーツ部が新たに創設され、その中に観光に関わる専門部署として国際観光室がつくられ、DMOを所管するほかこれまで商業課で担っていた観光協会のなどの施策を担当することになりました。かねてから観光に関わる

2003 第 1 回定例会 個人質問

うな入湯税・宿泊税などの税収が期待できない中で自主財源としてどのようなものをお考えかお聞きした時、会員制度を導入し会費による自主財源を確保することと自主事業の実施による財源確保を図るという答弁でした。会員制度が導入されたのか、導入されたとしたらどのような人や法人が会員となっているのか、会員数や会員収入の推移はどうなっているのか、会員を増やす努力はどのようなことをされているのか、お答えください。また財源を確保するための自主事業としてどのようなことをされているのか、お答えください。

第二にDMOの内部組織の問題です。当初から代表理事が非常勤で週に一度しか出勤しないという体制の中で、事務局長をはじめ事務局員が定着しないという問題を抱えていました。過日行われた 30 年度決算審

2003 第 1 回定例会 個人質問

専門部署の必要性を本会議質問でも数度にわたり訴えさせていただいていましたので、大いに評価するものですが、スポーツのまちづくり推進室などいろいろな部署で所管していた観光施策が一本化して大きな力を発揮するものと期待しています。国際観光室と東大阪ツーリズム振興機構とは更なる連携の強化が必要となりますが、この二つの関係をどのようにお考えか、また観光協会とDMOのすみわけをどのようにしていくのか、お答えください。

令和 2 年度は国の交付金の最終年度でもあり、5 年目を迎えたDMOにとっても大切な年度を迎えたといえます。観光まちづくりが東大阪に根付くのかどうか、来年度はその正念場を迎えるといえます。国際観光室と観光協会、DMOのみなさんの一層の奮起をお願いいたします。

2003 第 1 回定例会 個人質問